

明るく元気の出る町

平成8年12月1日発行・毎月1日 編集・発行 / 秋田県東由利町役場企画課

広報

ひがしゆり

HIGASHIYURI

東由利町

1996

12

NO.501



町イメージキャラクター
「モウ太くん」

「高くてもこわくないよ」

ハシゴ車体験乗車～文化祭にて



いよいよ動き出した 地場産業センターに 期待が高まる



昨年十一月九日にオープンした黄桜温泉「湯楽里」、お食事処「やしお」に引き続き町活性化拠点施設の一つとして地場産業センターの準備が進められています。

地場産業センターは地場産業の展示、紹介、アピールなどの支援機能を始めとして、町民の消費生活の安定を図ることで定住を促進する都市的生活利便機能、地域の情報発信によるイメージPR機能の三つの機能の一つにしたものです。

同施設は、お食事処「やし

工事の安全を 祈願して

地場産業センター起工式

◀工事予定地



お」に隣接した場所に建設、平成九年のお盆前開業を予定しています。

●施設の概要●

所在地…老方字畑田三十八

番地一

建物名称…東由利町地場産業

センター

建物延床面積…二、八九五・

九㎡

建物構造…鉄骨造・平屋建

開業予定…平成九年八月



▲町長による鍬入れ

地場産業センターの起工式が十一月十二日、関係者ら約四十人が出席して老方の現地で開かれました。

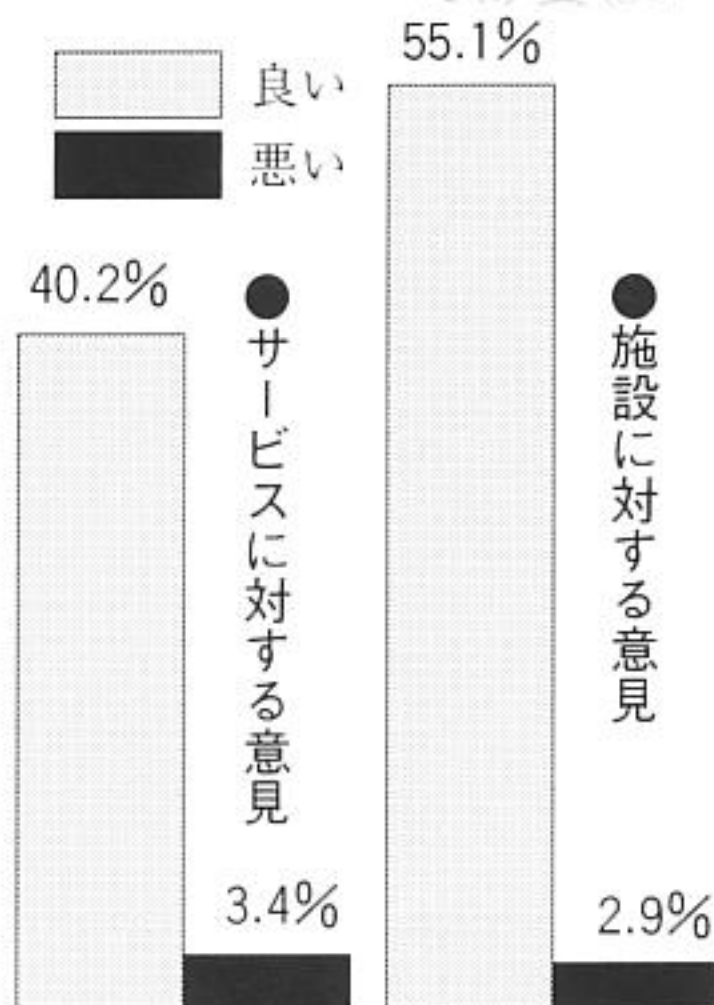
起工式で工事の安全を祈り神事が行われ、阿部町長を始め工事関係者が鍬入れを行いました。

道の駅「黄桜の里」「湯楽里」「やしお」

が開業一年に

東北・道の駅 「スタンプラリー」 集計結果

施設では全東北「道の駅」で三位、
サービスは二位



▲一周年をむかえた道の駅

平成八年四月二十七日から九月一日までの間行われた東北「道の駅」スタンプラリー（主催・東北「道の駅」連絡会）が終了し、道の駅・東由利の施設に対する意見で応募者中五五・一％の方が施設が良いと答えました。サービスの部でも四十・二％の方が良いと答えました。

割合で見ると施設については全東北「道の駅」で三位、サービスでは二位という結果でした。

この調査は東北「道の駅」

結果を励みに、より良い施設、サービスが望まれる

道の駅および各施設が出来て一年たちました。今後ともこの結果を励みに、より良いサービスに一層励むことが望まれます。



▲心からのサービスがわたしたちのモットーです



高橋重彰さん

湯楽里をご利用されるお客様をフロントでお迎えしております。込み合った時など十分な対応が出来ず戸惑ったりしましたが、お帰りになる時のお客様の笑顔が何よりの励みになっております。

アンケート結果については、道の駅や温泉施設をよくご存じのお客様の厳しいご意見とらえ今後につなげたいと思います。

今後の課題としてはお客様が驚くような企画が出来ればと思います。

「湯楽里」職員の声



小松幸輝さん

館内外の管理・清掃・送迎を心に頑張っています。

お客様が二度、三度と足を運んでいただけるように私なりに心掛けています。トイレや脱衣所のホコリなどは目につきやすいですから。

サービスでは東北二位の評判もしていただき感謝いたします。結果に甘んじることなく、お客様の要望に答えられるよう他のセクションとの話し合いを密にして一層の努力を尽くしたいです。

臨時議会（第六回東由利町臨時会）

農業・土木災害に補正予算

第六回町議会臨時会が十一月五日に招集され、平成八年度一般会計補正案ほか二案を原案通り可決して閉会しました。

一般会計補正予算は八千六百六十一万五千円で、累計は四十五億二千二百二十七万八千円です。主な補正内容は、▼農業用施設災害復旧費一千七百六十六万三千円▼公共土木施設災害復旧費六千四百四十万四千円などです。



▲8月の道路災害

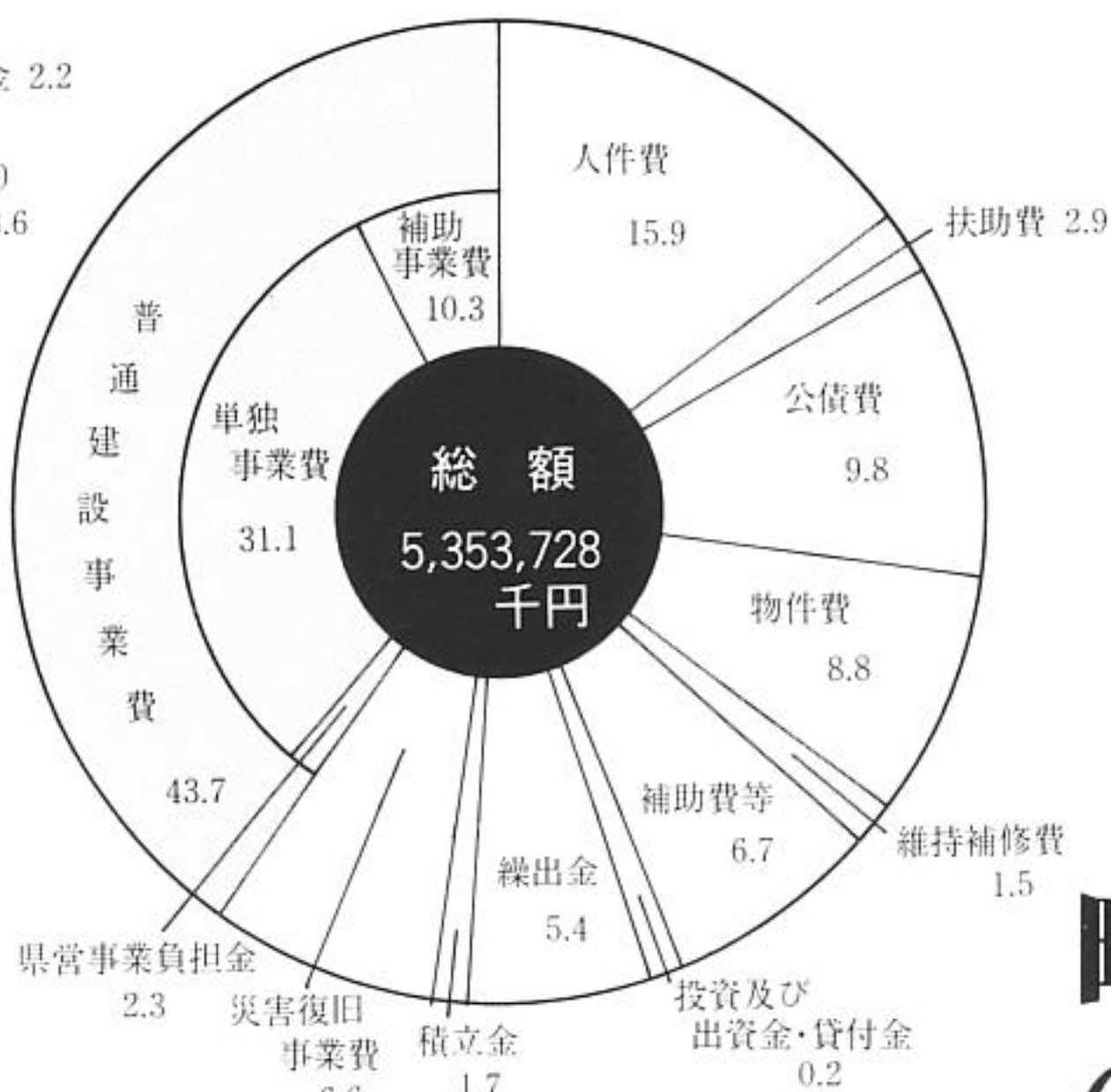
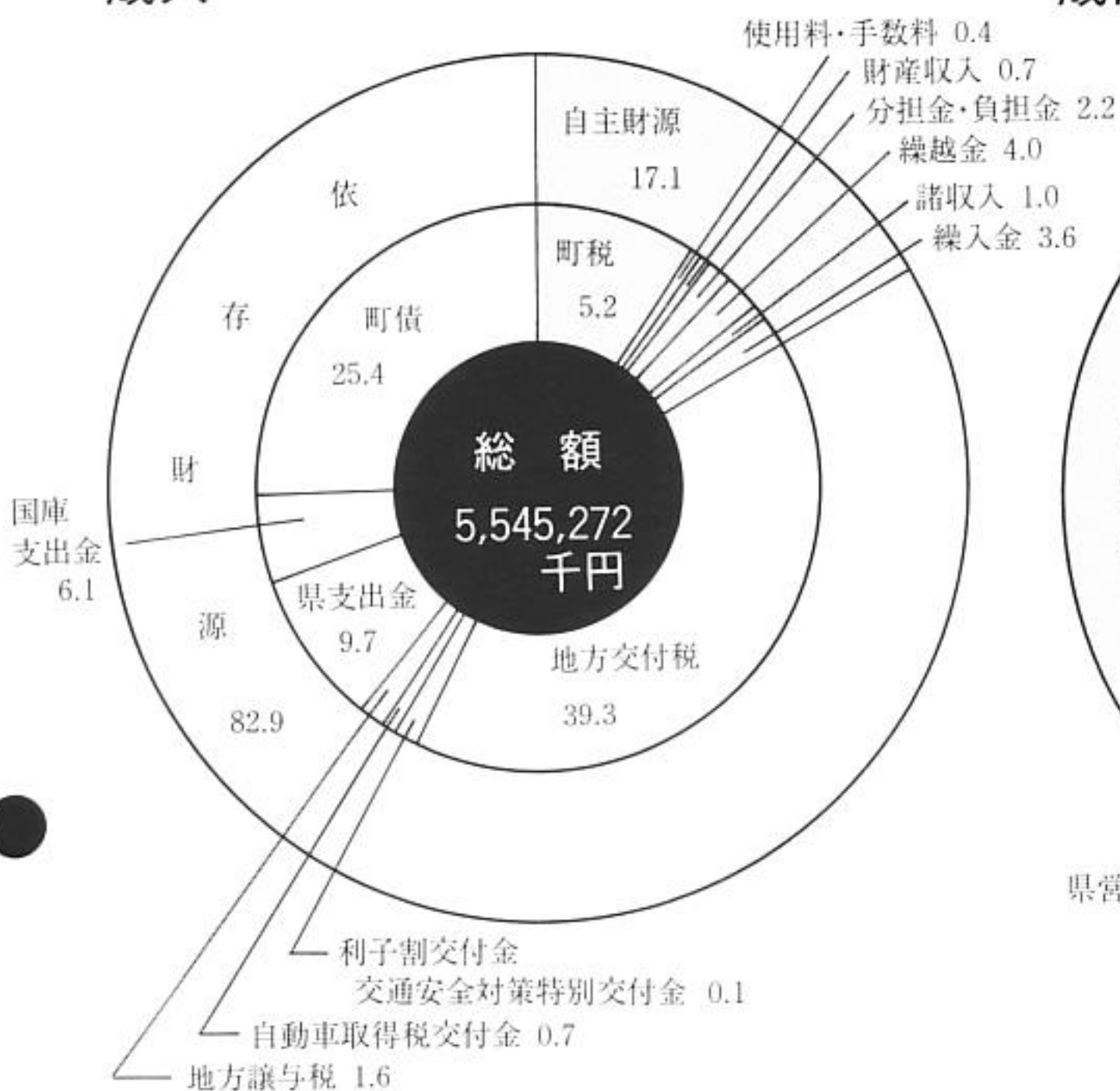
ふるさとづくり事業地場産業センター建築工事請負契約については、三億九千二百七十万円で吉野建設株式会社が契約締結しました。

平成7年度歳入歳出決算額構成比の状況

歳入

歳出

(数字は%)



平成7年度決算で見ると

町の台所事情

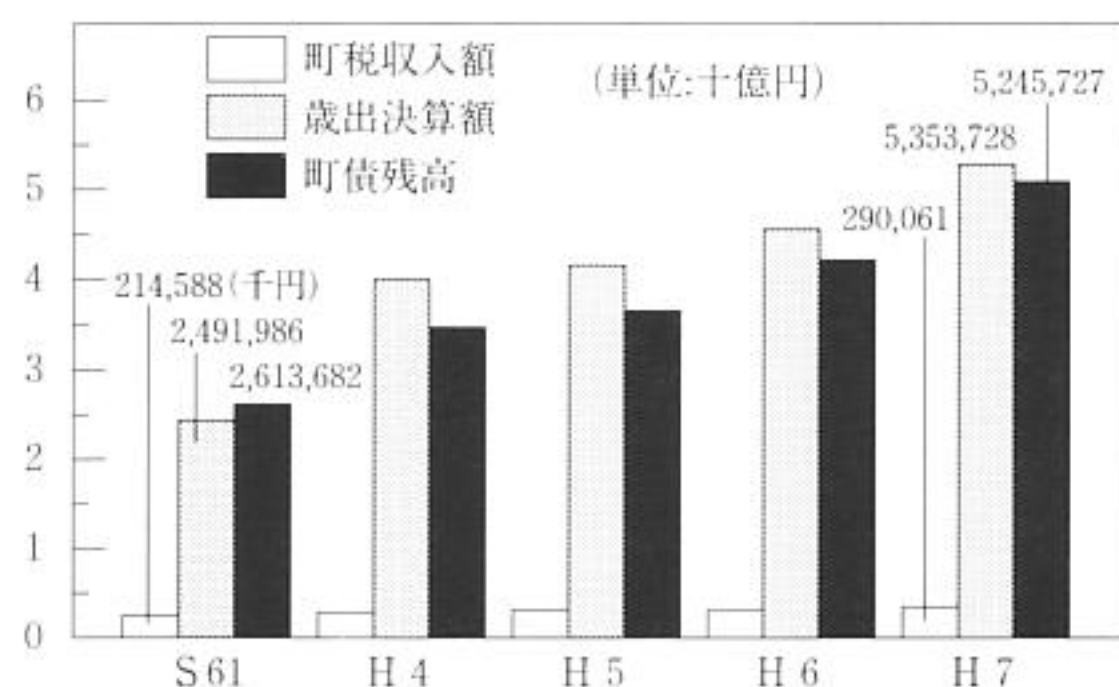
投資事業に50.3%

平成7年度決算の総額は、歳入が五億四千五百二十七万二千円で前年度比一四・四%、歳出が五億三千三百七十二万八千円で一五・三%の増となった。

歳入においては、財源の基盤となる町税が歳入総額の五・二%を占め事業遂行の原動力となった。また、継続事業として行った温泉保養施設、産地形成促進施設や道路などの整備のための財源として起こした町債が二五・四%と四分の一を占めた。

一方、歳出においては、人件費、扶助費、公債費を合わせた義務的経費が二八・六%となりこれに、物件費・維持補修費・補助費等を加えた經常的経費は、全体の四五・六%となった。また、拠点施設・道路・農業基盤の整備や下水道事業の着手などの投資的経費に五〇・三%が充てられた。

● 税収・歳出決算・町債残高の推移



● 町民負担の状況 (1人あたり)

(単位: 円)

税目	区分	S 61	H 4	H 5	H 6	H 7
町民税	個人分	11,291	16,246	19,433	17,432	19,374
	法人分	9,902	13,202	16,509	14,298	15,849
固定資産税	固定資産税	17,642	25,688	27,072	27,032	28,655
	国有資産等交付金	17,495	25,531	26,912	26,873	28,492
	国有資産等交付金	147	157	160	159	163
軽自動車税		1,094	1,444	1,483	1,550	1,640
たばこ税		2,996	2,956	3,125	3,164	3,366
電気税		2,143				
木材引取税		12				
入湯税						383
計		35,178	46,334	51,113	49,178	53,418

町民税個人分落ち込む

税収を町民の負担ととらえて推移を見ると、総額は十年間に約一・五倍となった。町民税の個人分については平成六年度の減少が目立つ。これは税制改正による特別減税の実施と併せ、前年の冷害による農業所得の激減によるものである。特別減税は平成七年度も引き続き実施されたが、給与と事業所得の伸びによりこの年度の全体は増加となった。法人税の増加は建設業が好調なことによるものである。固定資産税については、平成五年度に住宅用地の大幅な軽減措置がはかられたのに加え、平成六年度には家屋評価の減価が実施された。負担額の伸びは、家屋の新增築による増加が減少分を上回ったことによるものである。

町債十年前の二倍に

税収・歳出決算規模・町債残高の推移についてみると、十年間にそれぞれ一・四倍、二・一倍、二倍となった。投資に比例して、財源である町債が増加していることによるものである。

町長日記

町長阿部幸悦

地場産業 センター 起工式

十一月十二日、あいにくの天気でしたが地場産業センターの起工式がありました。この構想が出てから足掛け五年目になります。やっとここまで来ることができました。

定住人口が町づくりの基本であることは論をまちません。しかしわが町の現状では、これまでいろいろな施策をとって来ているのでありますが、結果的に定住人口を増やすということは至難の業であります。町作りにとって人口の圧力は必須な条件であります。これをどうすべきかとプロジェクトチームを作って議論を始めたのが平成三年でありました。

会を重ねて議論の結果、八塩ダム、黄桜まつりなどでみる交流人口をもっと積極的に施策すべき、と至ったのでありました。交流人口をいかに町づくりに取り入れて行くべきかを構想したのであります。そしてまた、国道一〇七号の車の流れにもっと注目しようということになりました。国道にたまり場が作れたらという事でありました。

丁度そのころ、建設省から「道の駅」構想が発表されました。私たちが議論した事とまったく同じ構想であります。すぐこれに立候補いたしました。

同時に施策していた温泉開発も

メドがつく状況になりました。しかしこの構想全部を町単独でやる体力は勿論ありません。県にお願いしまして自治省のふるさとづくり事業に採択して頂きました。

初めての地域総合整備事業債であり、交付税参入率は五十五%ですが補助事業の規制がない分、構想に我々の思いをたくさん入れることができました。

昨年十一月九日には道の駅「黄桜の里」と温泉保養施設「湯楽里」、農水省の補助事業でお願いしたお食事処「やしお」が開業致しました。お蔭様で順調な展開が見られております。

そして地場産業センターであります。これは町民生活の利便性を図るためのものです。我が町の小売吸引力指数は〇・四五となっておりますが、これは町内で買物がしにくいということでもあります。国道端に出て町民の生活の利便性にご協力して頂きたいとの私たちが要望にこたえて、八人の皆さんがテナントとして入ってくれました。

ここに至るまでには大変な議論を積み重ねてもらいました。八人の皆さんの決断に心から敬意を表します。開業は来年のお盆前になればと思っているとこです。

●基金現在高の状況

(H 8, 9 月末現在) (単位: 千円)

名 称	金 額
一般財政調整基金	258,414
国保財政調整基金	132,538
簡水財政調整基金	20,486
ふるさと出合いの森事業基金	26,709
地域振興基金	92,671
減債基金	279,194
国民年金印紙購入基金	400
庁舎建設基金	384,864
若者定住促進基金	55,223
地域福祉基金	140,000
土地開発基金	74,000
高額療養費貸付基金	4,000
中小企業振興基金	12,000
奨学資金貸付基金	16,000
特別導入事業基金	29,919
中山間ふるさと水と土保全基金	6,191
合 計	1,532,609

減債基金で備える

町の財産である基金については、平成七年度において、財政調整基金に二千四百四十二万三千円、減債基金に五千三百六十万五千円を積み立て将来の財政需要、公債費の増加に備える一方、地域振興基金から二億円を取り崩し温泉保養施設の財源とした。

財政基盤強化が課題

平成七年度は町税の三十一年度連続完納という輝かしい記録を打ちたた。これは町民

の町政に対する理解と協力の成果であり、引き続き完納記録の更新に努めたいものである。

これを原動力として、「明るく元気の出る町」づくりのために、生活基盤や産業基盤の整備、山紫水明の里づくりのための下水道事業への着手など、限られた財源を駆使し積極的な事業展開であった。

しかし、人件費や高齢化社会を迎えての様々な福祉施策のための経費、また財源不足を補うために借り入れた町債の償還費など経常的経費は年々

増加してきており、本町の財政状況は益々硬直化していくことが懸念される。

また、国の財政事情からして、地方の財源不足を全て国に求めるのは、もはや限界だとする論もある。そうなれば、町税などの自主財源が二割にも満たない本町にとって影響は図りしれないが、地方分権時代に備え英知をしまり、財政基盤の強化を図っていくことが今後の課題である。

今、まさに「町民の町民による町づくり」の時代を迎えたといえる。

目を見張る作品。 市民の力作が勢揃い！

好天に恵まれ、5,500人の人出

第10回産業文化祭
11月2日(土)・3日(日)



町民が日ごろ取り組んでいる生産や各種文化活動の成果を展示発表し合うと共に、町全体の産業、経済、文化の交流の場にしようと毎年行われている東由利町産業文化祭。十回目の今年は十一月二日、三日の二日間、健康増進センター、有鄰館、朋楽荘などを会場に行われました。

由利)主体の「農協祭」を共催して行ったのが始まりです。初日こそ肌寒いあいにくの天気でしたが、翌三日は好天に恵まれ両日で約五千五百人の人で、にぎわいました。農産物、老人クラブの手作り作品、陶芸作品などを各施設に展示され、訪れた人々を楽しませていました。有鄰館二階では、文化講演会、農業者大会、ステージ発表などで終日にぎわっていました。



▲コーラス発表

産業文化祭入賞者一覧

(敬称略)

〔一般展示物・町長賞受賞者〕

《水稲／でわひかり》小松修一

(寺田)

《畑作物／ホウレン草》嶽石伊久雄(山崎)

(雄)

《花き／バラ》佐々木精人(大琴)

《果実・林産／リンゴ》小松茂穂

(新町)

《農産加工／なす漬》加藤誠子

(湯出野)

《菌たばこ／みちのく二号》遠藤五郎(館合新田)

《その他／パッチワーク》藤原富貴子(上通)

《牛乳料理／牛乳豆腐の白あえ》

新処・女性部

新処・女性部

〔団体賞〕館合新田協同班

〔シルバー創作展・金賞〕

●野菜の部

《白菜》小松茂(老方敬寿会)

《ネギ》小野豊二郎(蔵壮寿会)

《タマナ》高橋次男(館合第三寿会)

(会)

●果実・穀類の部

《りんご(王林)》小松茂(老方敬寿会)

(敬寿会)

《いんげん》高橋ツキミ(館合第三寿会)

(三寿会)

●工芸品の部

《ツルコダシ》佐藤太一郎(法内生寿会)

(生寿会)

《草ホーキ》畠山信二郎(館合第三寿会)

(三寿会)

●盆栽・菊の部

《菊》佐々木正隆(宿紅葉会)

●果実酒・食品加工の部

《干もち》柴田エチ(館合第三寿会)

(会)

《かんぴょう》武田ハツ(袖山長寿会)

(寿会)

《なす漬》渡辺アサ(館合第三寿会)

(会)

●和服の部

《そでなし》小松美代子(宿紅葉会)

(会)

●造花・手芸の部

《パッチワーク》小松ケイ(館合第三寿会)

(第三寿会)

《鶏三羽》八嶋ミネ(館合第二寿会)

(会)

《コスター》木島シゲヨ(蔵壮寿会)

(会)

●ちぎり絵・はり絵の部

小松メサ子(館合第一寿会)

平成八年度町農業者大会が十一月二日に有鄰館で行われ、農業者及び関係者など約百三十人が出席しました。

会では平成八年度認定農業者認証書を皮切りに、県立農業短期大学農村生活学科の青木辰司助教授による基調講演、同校北原克宣講師による「東由利町農業の現状と課題」実態調査中間報告」が行われました。

引き続き「魅力ある東由利町の農業を目指して」と題し、青木辰司氏がコーディネーター、東由利農協代表理事組合長阿部和雄氏が助言者、六氏がパネリストを務めたパネルディ

スカッションが行われました。これは本町農業の方向性を学習しようといわれたもので、活発な意見交換が行われました。なお当日農業者認定書が交付された方は次のとおり。

◆横山悦郎氏 四十九歳

〈泡ノ瀧〉 水稲単一

◆阿部司氏 四十七歳

〈葎沢〉 水稲＋肉用牛（繁殖）

◆小松功氏 四十四歳

〈高戸屋〉 水稲＋葉タバコ

◆小松正武氏 五十二歳

〈高戸屋〉 水稲＋葉タバコ

◆木島成寿氏 三十六歳

〈岩館〉 水稲＋肉用牛（繁殖）

◆鈴木和夫氏 四十五歳

〈沼〉 水稲＋肉用牛（繁殖）

農業者大会 パネリスト紹介

北原 克 宣氏

秋田県立農業短期大学農学科講師

高橋 重四郎氏（館合新田）

◎水稲四・九畝、繁殖牛八頭

◎現状を維持しながら、ゆとりを持てる農業をしたい。

嶽石 嘉規氏（八日町）

◎水稲二・二畝ほか、アスパラガス、ハウレン草など

◎会社（秋田ルビコン）と農業を両立させて頑張る覚悟。

伊東 茂雄氏（高村）

◎水稲三畝

◎人には頼らず、自分で農業をしていくことがモットー。

小松 信子氏（高戸屋）

◎水稲六・一畝、タバコ一畝、タバコ婦人部長

◎夫との共同経営だが、自立して頑張ることがモットー。

畑山 喜美子氏（島）

◎水稲一畝、ジャージー成牛二十七頭・育成牛十二頭等

◎とにかくいい牛を作りたい。安心して営める農業を。

人生を語った松居さん

二日には有鄰館で女優の松居一代さんをむかえ文化講演会が催されました。「人生を楽しく生きるために」と題し、アトピーの子供との闘病記を中心に自らの人生について語りました。



▲講演中の松居さん

若さあふれる愛郷祭！



▲若いエネルギーが爆発！



▲先生とお好焼屋さん

●下郷分校文化祭

十一月三日、産業文化祭と同時に下郷分校で愛郷祭が行われました。当日は、写真・美術・調理クラブなどの展示を始め、各学年のクラスデコ、食堂などが校内各所で行われ、接客に慣れない生徒たちも一生懸命がんばっていました。舞台発表では若さあふれるライブを中心に盛り上がりしました。愛郷祭は生徒数の少なさを感じさせない内容でした。



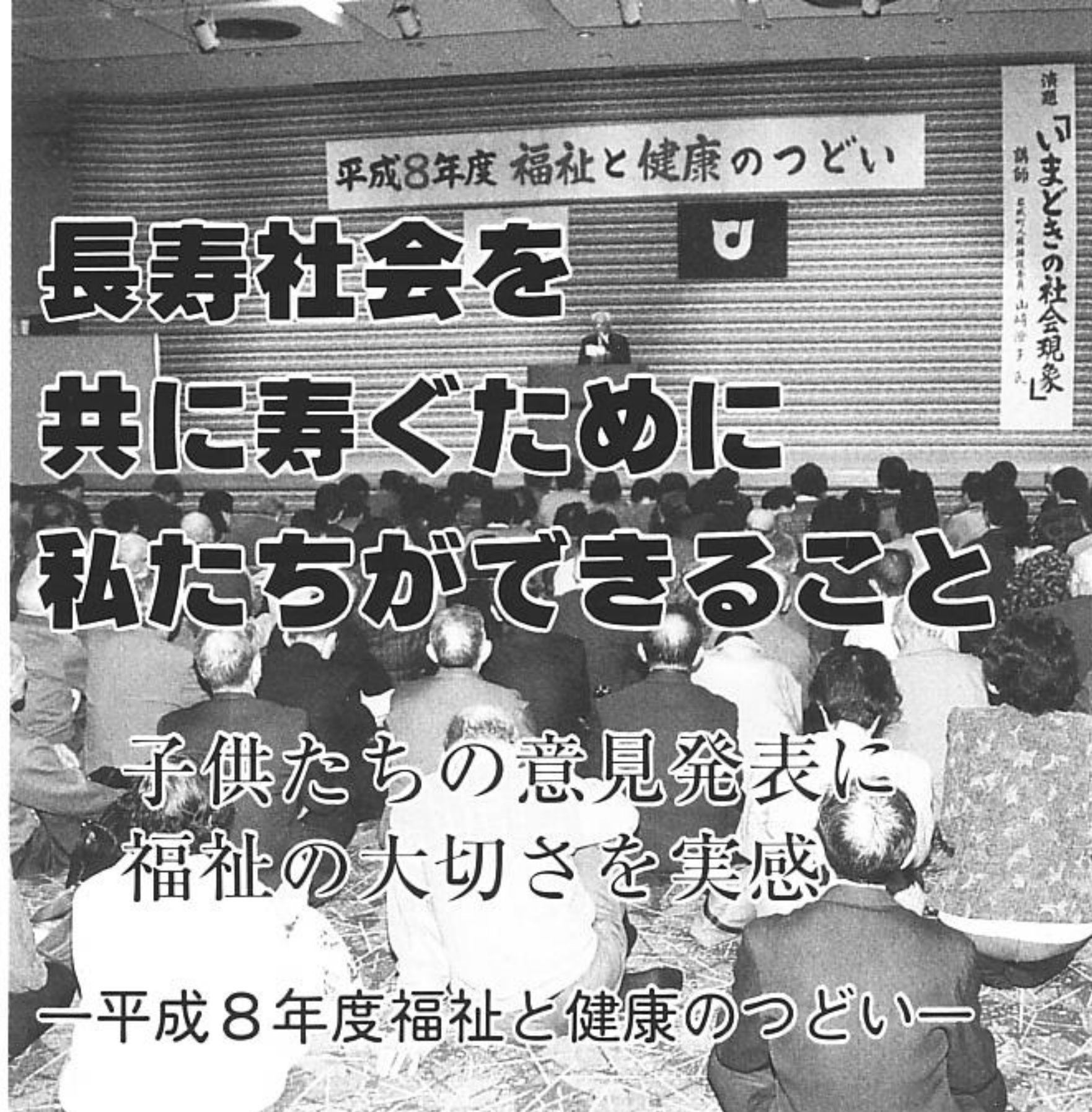
▲わたしたちのゆうぎはどう？ ▲モウ太くんと一緒にピース

平成8年度 福祉と健康のつどい

長寿社会を 共に寿ぐために 私たちができること

子供たちの意見発表に 福祉の大切さを実感

—平成8年度福祉と健康のつどい—



「本当の『福祉』を」

「福祉」という言葉を耳にした時、何を頭にうかべますか。私はすぐに、お年寄りの人達や、体が不自由な人を頭にうかべます。でも私が思ううかべることができるのはそこまでで、本当の「福祉」を理解しているとは言えません。

そんな時、私は一冊の本と出会いました。それはマザー・テレサの伝記です。この本は



高瀬小学校6年
阿部 元子さん

私に「福祉」についていろいろヒントをあたえてくれました。私がマザー・テレサに出会ったきっかけは、「福祉」について何も分からない私に父がすすめてくれた事でした。

十一月十二日、有鄰館において「平成八年度福祉と健康のつどい」が開催され、町民二百人余りが参加しました。高齢化社会での福祉の大切さを考えようと昨年まで「町の福祉を高めるつどい」として実施してきましたが、健康とは長寿を始め長寿社会を共に寿ぐための基礎でもあるということから、今年は町健康大学と共催で行ったものです。主催者挨拶、来賓祝辞の後、各小、中、高校の児童生徒五人による体験発表が行われました。子供たちの話を聞きながら福祉の大切さについて改めて実感していました。

(以下一部省略して紹介)

マザー・テレサは、「生きていく上で一番悲しい事は、誰からも相手にされず、自分は人間じゃないと思ひこんでしまふことだ」といい、誰にでも同じように接します。たとえ、それが障害者であっても、こわい病気にかかっている人でも同じです。私はその場面を読んだ時どうしてそんな事ができてしまうのかと思ってしまうほど驚き、感心してしまいました。そして、マザー・テレサは本当にすばらしい人

「東光苑で働くお母さん」



大琴小学校4年
島山 和人くん

ぼくの母は、東光苑で働いています。ぼくたちの学校が休みの日に仕事に行くこともあります。どうしてお母さんは毎週日曜日が休みじゃないのか、また、どんな仕事をしているのか、知りたいとお母さんの仕事を見せてもらうことにしました。

東光苑には、体の具合の悪いおじいさんやおばあさんがたくさんいました。自分でごはんを食べることができない人や、オムツをしている人もいました。ベッドにはコール

がついていて、調子が悪い時に押すとかいご員がその部屋に行くのだそうです。

お母さんは、薬のじゅんぴをしたり、薬をつけたりする仕事をしていました。お母さんはとても忙しそうでした。

あとで聞いたら、一日に二十四時間、必ずだれかがすぐにベッドにかけつけることができるようにしているのだそうです。夜中、ぼくたちが眠っている間もこのような仕事を

している人がいるのだなあ、大変だなと思いました。

家に帰ってから、ぼくはお母さんにこんなインタビューをしました。「お母さんが仕事をしていたうれしい時はどんな時ですか」

「それは一つ目に、体調をくずしていた人がよくなったときだよ。二つ目はおじいちゃん、おばあちゃんにシップをしたり、きずの手当をしてあげた時にありがたうとお礼を言われたときだよ」

「お母さんが仕事をしていて悲しいと思う時はどんな時ですか」

「いろんな人と出会うけど、その人たちとお別れするとき、そして、いっしょうけんめい手をつくしても思うほどよくならない時が悲しいな」

お母さんの話を聞いていて、お母さんが仕事に対してとても熱心だということ、東光苑の人たちのことを本当に思っているんだなという気持ちがお母さんにも伝わってきた。

ぼくは、お母さんの仕事を勉強して、お年寄りを大事にし、世話をしあげることの大切さを知りました。

お母さんのような仕事をしている人も、していない人も、ぼくたち子どもも、お年寄りをいたわる心をわすれてはならないと思います。

だということを改めて実感させられました。私とマザー・テレサの違う点は、誰にでも同じように接してあげるといふ所だと思っています。例えば、私が体のどこかに障害がある人に会ったとしても、私は同じように接してあげられる自信がありません。心のどこかに同情や、偏見が生まれそうでこわいのです。

マザー・テレサと同じ様な心を持ち、がんばっている人たちは、私の身近な所にもいます。それは、東光苑で働いている人達のことです。東光

苑で働いている人達はマザー・

テレサのように世界的に有名ではありませんが、働いている姿はマザー・テレサそのものです。誰にでも同じように接し、会話をしたり、散歩したりしています。だから、入苑している、おじいさん、おばあさんの顔からは笑顔が消えることはありません。そんな笑顔を消さないためにも、「福祉」は必要なことであり、大切なことだと思います。

これから、二十一世紀になり、高齢化社会となります。そして、その社会を私たちが

中心となり支えていかなければなりません。だから、誰にでも同じように接する心を忘れてはいけないと思います。その心を忘れなかったら、きっと笑顔の絶えない温かい社会になるはずですよ。私には出きない、自信がないなどと言っ



たが、話しかける勇気が湧いてきません。ところが、そんな私に一人のおばあさんが声をかけてきてくれたのです。張りつめていた気持ちが一気にほぐれ、嬉しくて嬉しくてたまりませんでした。そのおばあさんは身の上話をしてくれました。以前は看護婦をしていたそうです。くも膜下出血で倒れてからは、逆に介護される身になってしまったということでした。しかし、介護されている今も、看護婦の時の気持ちを忘れてはいないようで、他のおじいさんやおばあさんに

「ボランティア活動を通して」

私が初めてボランティア活動をしたのは、高校のボランティアクラブに入ってからです。まだ、半年くらいしか活動をしていません。けれども、これまでの活動を通して、感じたり、学んだりすることがいくつもありました。施設を訪問する活動で、当



下郷分校1年
阿部美代子さん

初めに戸惑いを感じたのは、「入所されている方々と、何を話したらいいのだろうか」ということでした。世代が違ったり、環境が異なったりすれば、当然話がかみ合わないはずですよ。しかも、相手は何かと気をつかわなければならぬ人達です。そのようなことをあれこれ考えているうちに、次第に自信がなくなってきました。ですから、ボランティアクラブで、初めて東光苑を訪問した時の私は、お年寄りの方々と、とうとう最後

まで何も話ができませんでした。ただひたすら、与えられた場所の掃除をするのが精一杯でした。帰るとき、「どうして少しでも話ができなかったのだろうか」と随分後悔しました。その後、夏休みに雄和町にある身体障害者養護施設の雄高園を訪問しました。入所されている方々を目の前にして、やはり「何を話したらいいのだろうか」ということが頭の中で行ったり来たりしていました。「恥ずかしがってばかりいては何も始まらない」と自分に言い聞かせてはみまし

たが、話しかける勇気が湧いてきません。

雄高園を訪れるまでの私は、体が不自由な人やお年寄りをみると、大変そうだなとか、かわいそうだなといった同情的目ばかりで見えていたように思います。ですから、そういう方々には「何かしてあげなくてはいけないのではないか」「喜んでもらうためには何をしたらいいのか」というおこた気持ちは持っていたのです。そのことばかりが頭にあって、気負ってしまい、結局何をしたらいいのか、何を話したらいいのか分からなくなってい

たのです。しかし、そのおばあさんとの出会いによって、自然に自分を出して自然に振る舞うことが大切なのだと感じました。結局は人間と人間のつきあいなのですから、それしかないのだというところに思いが至りました。

その後東光苑で食事の介助をするようになりました。これまでオムツたたみや苑内の掃除はしていましたが、食事の介助は初めてです。しかも、話しかけながら食べさせてあげてくださいと言われ、またしても不安な気持ちになりました。でも、今度は勇気を出して、普段の自分を出し、自己紹介から始めて色々な事を話すことができました。話しながら「これでいいのか」「話はつまらなくないか」といったことを考えましたが、話が出来たということは何よりも嬉しいことでした。これからも、多くの経験をし、大切なことを一つでも二つでも見つけられるように努力していきたいと思っています。そして身近なところでもふれ合いを多くし、みんなと手をつないでいけるようになればいいと思います。

「今、私たちにできること」



東由利中学校3年
長谷山未来さん

「福祉ってどんな事ですか」と問われた時、みなさんはどのように答えますか。福祉といっても、児童福祉・障害者福祉・公共の福祉など色々な福祉があります。私は、寝たきりの老人や体が不自由な老人を助けること、つまり老人福祉をまっ先に思い浮かべました。多分、みなさんも老人福祉のことを考えられたと思います。では、「福祉についてあなたが普段努力をしている事を教えて下さい」と問われた場合、どのように答えるでしょうか。残念なことですが、私には「こんな風に努力していません」と言えることはありませんでした。毎日の生活の中で、福祉ということを意識して生活していなかったからです。福祉という言葉を知っていても、具体的にどのような事を実行すれば良いのか良く分からないというのが今の私たちの現状なのです。今年の夏休みに、東由利中

学校では福祉の体験学習が行われました。東光苑とみどり保育園に行き、福祉の現場を直接体験してみるという活動でした。参加したい人だけという自由参加の活動でしたが、私が考えていたよりたくさんの方が参加し、福祉について興味を持っている人がたくさんいるということに驚かされました。私はこの体験学習に参加し、多くのことを学びました。

東光苑に集合した私たちは、デイサービスセンターでの清掃班と、車イスでの散歩班に分かれて活動しました。私は清掃班になったため、直接お年寄りと触れ合うことはできませんでしたが、東光苑の職員の方の話や、散歩班だった人の話を聞き、色々なことが分かりました。

車イスを押して近くの神社まで散歩に行った人たちは、少しの段差でも車イスの扱いにとまどったそうです。車イスを押す速度や方向転換の仕方などうまく出来ず、急に止まってしまったり、前の車イスにぶつかってしまった人もいたそうです。このような車イスを利用しなければならな



八塩小学校6年
長谷山洋一くん

「いつまでも健康で」

ぼくの家族は八人です。おばあちゃんが二人とおじいちゃんとお年寄りが三人います。やさしい家族といっしょにぼくは育ってきました。

家族みんなが「おはよう」「おはよう」とあいさつしながらぼくの家族の一日が始まります。

ひいおばあちゃんが一番早く起きて、お部屋をあたたくくしてぼくたちをむかえてくれます。おじいちゃんは建設業のほかに近くにある畑仕事をがんばっています。おばあちゃんは親せきの赤ちゃんの子守、家事、そして畑仕事とたくさんのお事をしています。

時々おそくまで仕事をしてつかれて帰ってきます。肩がこったのか、自分の手でもんでいいることもあります。そんな時「肩をもんであげようか」と両手でもんであげています。手がすごく痛くなるけれど

「おじいちゃんやおばあちゃんにあしたがんばってほしい」という願いを込め、がまんしてもむくもあります。

夕食の後かたづけでも、茶わん洗いや茶わんふきを時々ですがお手伝いしています。お手伝いしてうれしいのは、必ず「ありがとう」と言ってくれることです。「やってよかった。またがんばるぞ」という気持ちになります。人に感謝するって大事だなあと感じます。家族が明るく仲良く過ごしていくためには、簡単なことでも自分ができることを進んで実行できる人にならなければいけないと思っています。

東由利町では、六十五歳以上のお年寄りが千四百五十人いるそうです。高れい比率が二十六・八パーセントと秋田県で第四位、郡内では第一位だそうです。このことは、ぼくたちにとってあまりうれしいことではありません。でもこの地域に住み、生活している以上ぼくたちがやらなければならぬことがあるように思います。それは何といってもボランティアの心を持ち続けていくことです。「どんな小さなことで

もいい」みんなに役立つことを進んでがんばらなければいけないと思います。

ぼくたちの学校では、十月に収穫したお米を東光苑に届けることにしています。町には寝たきりの老人が二十六人、体の不自由な人が三人、合わせて二十九人いるということです。その人たちを少しでも喜ばせてあげようとお母さんたちが心をこめて作っている「ふれあい弁当」を届けているそうです。どんなにうれしいことでしょう。お母さんたちだってとっても忙しいのにボランティアをしてがんばっているんですからすごいことです。このような活動はとても大切だと思います。

ぼくたちも寝たきり老人の人たちを少しでも喜ばせてあげようと、児童会が中心になってはげましのお手紙を書く計画を立てています。それから道徳の授業を生かして、東光苑にいるお年寄りの人たちと遊んだり、そうじの手伝いをしたりしてがんばる計画も立てています。赤い羽根募金にも協力し、全校で九千八百三十一円集めました。

お年寄りが増えている東由利町では、一人一人がこのよ

い日が近い将来、私たちにもやってくることを考えると、道路を整備し、少しの段差でもなくしていくことや、もつと老人と触れ合う機会を多くしていくことは、これからの高齢化社会をよりよく暮らしていくために必要なことだと思います。老人が住みやすい社会を作り出していくことは日本に課せられた、私たちみんなの課題なのです。

東光苑では、デイサービスに来る人や入居者の皆さんに楽しんでもらいながら、持っている体の機能をおとろえさせないために、いろいろなレクリエーションを行っているそうです。魚つりゲームや風船バレーで、肩より手が上がらなかつた人が、ゲームに熱中していると手が上がるようになるなど、楽しみながら体の機能を生かしていく素晴らしい工夫がなされていました。楽しむという事は、自然に笑顔があふれ、寝たきりを防ぐ効果もあるそうです。

また、月に一度外出の日があり、みんなで買い物に行ったりして外の空気を吸い、社会の環境に触れリフレッシュしているそうです。私は買い物をしてる時の写真を見せていただき、お年寄りのみな

さんのすてきな笑顔に感動しました。あんなに楽しそうに毎日を過ごすことのできる社会ができたらいと心から思いました。急速に高齢化が進む社会の中で生きていく私たちにとって、老人福祉の充実は重要な問題です。老人の立場に立って、目の高さを老人に合わせた生活をしていく事により、身近な環境は整って行くのではないのでしょうか。

私は東光苑の訪問を通して、老人福祉について真剣に考えるようになりました。今、私たち中学生にできる事は、東光苑を訪問したり、老人問題について考えていくことなど限られています。しかし、私たち一人一人がもっとお年寄りと積極的に触れ合い、どんな話をし、声をかけ合っていくことで、少しずつ、老人にやさしい社会が作られていくのではないのでしょうか。「おはようございます」の一言も、福祉活動につながっていくのではないかと思います。私たち一人一人ができること。それは老人との小さな触れ合いを続けていくことです。これからの高齢化社会に向け、小さな積み重ねを大切にしていききたいと思います。

「いまどきの社会現象」 山崎澄子氏講演



▲ゲームを交えての語り

「ことばはやまびこです」 迫力ある語り 町民魅了

「いまどきの社会現象」と題した講演が行われました。自分の仕事や日常生活を通して体験した食生活・育児・家族・親子・子供・地域などを紹介しながら、健康について講話しました。

ゲームなどを交えながらの語りに、会場は終始笑いと涙でした。「言葉はやまびこ」、言葉次第で人間関係は良くも悪くもなるという話に町民の方々は深くうなずいていました。

初勝利に満面の笑み

東光苑
風船バレー

本荘市の広域交流センターで本荘市由利郡老人ホーム連絡協議会主催の第六回風船バレー大会が行われ、東光苑が見事初優勝にかがやきました。

今年はいつもの年と違って練習に力が入っていたようで、「必ず勝つ」という気迫で毎日頑張ったとのこと。

一回戦寿荘B戦では、前半こそ押されていましたが、後半東光苑チームの底力を発揮、逆転勝利を治めました。その後広洋苑戦、白百合苑戦に勝利を治め、決勝戦では強豪の



▲東光苑選手勝利のポーズ

浩寿苑と対戦、十対八で優勝したものです。ゲーム後は選手全員満面の笑みをたたえながら勝利を喜んでいました。

社会福祉協議会より

世界中であなただけのやさしさを待っています。

海外の恵まれない人々に援助の手を差し伸べる「NHK海外たすけあい」が十二月一日から二十五日まで実施される事になりました。

義援金の受付窓口は、郵便局、秋田・北都銀行、農協、NHK、秋田赤十字病院などです。

温かいご協力をお待ちしております。

うなボランティアの心をもって、生きていくことが大切に思います。ほく自身、今までは自分のことや家族のことしか考えていませんでした。これから地域の人たちとふれ合うことを大切にして、自分の心を大きく育てていきたいと思っています。そのために、町の行事やサークルにも進んで参加し、地域の人たちからたくさん学ぶ、みんなに喜ばれるボランティアの心をもつと活動していかうと心に強くちかいました。



トピックス

除雪に対し心構え新た

ブルオペレーター出勤式

今年も雪のシーズンになりました。本格的な冬に先駆け11月15日に役場でブルオペレーターの出勤式が行われました。

9人のオペレーターを前に町長が「健康で事故がないように作業を進めてください」とあいさつ、その後注意事項が伝えられました。

出席者一同除雪作業に対し心構えを新たにしていたようでした。



▲真剣な表情のオペレーター

交流人口対応の看板が設置

指示誘導看板兼歓迎塔設置

国道一〇七号舟木地内に指示誘導看板兼歓迎塔が設置されました。これは町内の主要施設へ分かりやすく安全に誘導するために設置されたものです。増えつつある交流人口に対応すべく、町では将来的に雄物川との境にも設置を考えています。



▲高さ8.5m、幅3.0mの誘導看板

21人が半年の共同生活に

東中寄宿舍入舎式

11月5日、東中寄宿舍入舎式が行われました。

1年生から3年生までの21人が斎藤和寛先生のもとで、約半年間の共同生活に入ります。

入舎生全員の点呼の後、寮長高沢智幸君を始め、副寮長、各室長が任命されました。各自が責任を持って行動することが団体生活では重要です。全員が力を合わせて頑張ることを誓い合っていました。



▲入舎者全員の氏名点呼

悠久の中国大陸を回想

海外研修帰国報告の集い

十月二十九日、有鄰館で町長、大内町長を来賓に、合同海外研修帰国報告の集いが行われ、研修参加者など二十人余りが参加、研修報告をしました。集いでは研修報告スピーチとして一人一人が一言ずつ思い出を話しました。研修員は話しを聞きながら、各々の中国の旅を回想していたようでした。



▲団員による和気あいの報告会

県内最大級の八本杉の下

法内八本杉遷祠祝賀会

十一月十五日、八本杉遷祠祝賀会が行われました。これは、大正から昭和にかけて炭焼き人の事故死が相次いだため建てられた祠が老朽化したことにより、有志一同によって新たに建てられた祠を祝ったものです。

法内にある八本杉は県内の天然杉では最大級です。全国的にも、国有林にあるものとしては屋久島の縄文杉に次ぐ大きさを持っています。



▲八本杉とともにまつられた祠

まちかどから ちよつといいハナシ⑩

泉秀寺から大量の文字入り小石が

お経の一部と見られる文字が書かれた直径一五センチほどの約三万個の小石が、山門修復工事中の泉秀寺境内鎮守堂の下から見つかりました。五十嵐住職は、先代からあるらしいと聞いてい



▲本荘市長の祝辞を聞く出席者

近くて遠い故郷東由利に集う
ふるさと

第三回本荘東由利会総会

十月二十日、「湯楽里」で第三回本荘東由利会総会が行われ、本荘市内に住む東由利出身者など約六十人、町からは町長を始めとする町関係者の他、本荘市長が来賓として出席しました。総会に先立ち、会顧問の本荘第一病院院長小松寛治先生の記念講演がありました。懇親会では久しぶりに会った知人と交流を深めていました。



悪天候の中、4歳児も歩く

東由利～諏訪山間ウォーキングツアー

水ネット環境東北子吉川連携交流会の一環として、十文字町から本荘市までの60キロを歩くウォーキングツアーが10月25日、26日の両日行われました。本町からは東由利から諏訪山ドライブインまでの間、約14キロに十数人が参加しました。

朝からあいにくの雨模様の中約3時間半の道中。4歳児の参加もあり、一同、東由利の秋を楽しみました。



▲元気よく歩く参加者たち

肌寒い空の下、球技スポーツに親しむ

第三回東由利町スポーツ祭

町スポーツ祭が十月二十七日に町民約百人が参加し開催されました。町民運動場で行われたペタンクでは下小路チームが、勤労者野球場で行われたグラウンドゴルフでは下通Aチームが、それぞれ優勝しました。参加者一同肌寒い空の下競技を楽しみました。



▲グラウンドゴルフ競技の模様

強豪を退け バドミントンで初優勝!

第22回本荘市由利郡バドミントン大会

十一月十日、由利町B&G体育館で行われた本荘市由利郡バドミントン大会において、7チーム出場の男子団体リーグ戦(ダブルス3組)で東由利町チームが強豪を退け初優勝を飾りました。結果については次のとおりです。

優勝 東由利町
準優勝 矢島町
第三位 本荘市



▲喜びのバドミントンチーム

まちかどから ちよつといいハナシ①

どんな気持ちで働いているんだろう?

中一が役場訪問、アンケート



▲生徒たちの質問に答える職員

東由利中学校一年A組の生徒三人が役場を訪れました。学級活動進路学習の一つとして、働く人の考えを知る目的で役場を始め町各企業を訪問アンケートとのこと。その後結果を学級内で発表したそうです。しつかりした質問に対して職員は戸惑いながらも真剣に回答していました。



▲文字入り小石の一部

ものの、その数の多さに驚いていました。同寺では檀家などと話し合い、保存方法などを決める方針だそうです。

情報プラザ

年金だより

国民年金保険料は、口座振替が便利です

電気やガスや電気料金などの口座振替と同じように、保険料もあなたの指定された預金口座から自動的に振替納付できます。納め忘れもなく、忙しいときでも安心です。

本町でも、平成九年度より国民年金保険料の納付方法として、口座振替制度が導入されます。



現在国民年金委員の皆さんが、国民年金被保険者の各世帯に配布済みの「口座振替依頼書」を回収中です。

◆口座振替の共通事項として

- ①振替は、申し込みをした月の翌日からですが、現在回収中のものは平成九年四月から。
- ②一度口座振替されると翌年度以降も継続されます。

上手に使おう、24時間

- ③同一家族であれば一つの口座から振替できます。
 - ④通帳記帳が領収書です。
 - ⑤残額がなく振替が出来ない場合は翌月に二カ月分振替。
 - ⑥一括全納を希望する方は、四月振替しかできません。三月までに申込み手続きして下さい。
 - ⑦国民年金保険料納付免除を受けている方は今回はとりえず口座振替手続きは行わないで下さい。
- 詳細については年金係まで
(☎69-2118)

税務だより

大琴の石綿民喜さんが十一月十一日行われた納貯地区連合会表彰式において、本荘市由利地区納税貯蓄組合連合会長表彰を受けました。石綿さんは町納税貯蓄組合連合会副会長として頑張っています。



▲石綿民喜さん



▲喜びの三人

税に対する私たちの意見です

平成八年度税に関する作文コンクールで、出展四八〇点から、東中二年の佐藤泰子さんが本荘税務署長賞を、一年の長沼淳君、鈴木弘和君が本荘由利税務貯蓄組合連合会長賞をそれぞれ受賞しました。

町民だより

ドライバーの皆さん、注意してね！



八塩小6年
佐藤 碧さん



平成八年度交通安全に関する作品コンクールで八塩小六年佐藤碧さんがイラストポスターの部（小学校・高学年）で最優秀賞を受賞しました。

十一月十九日には、秋田県児童会館において、秋田県生活環境部県民生活課長より表彰を受けました。

年金委員として10年の努力が実る



▲阿部久盛さん(十二ノ前)

十二ノ前の阿部久盛さんが11月12日行われた国民年金事業優良団体等表彰式において国民年金委員として表彰を受けました。これは阿部さんの地域住民指導と制度推進、10年の委員としての功績が認められたものです。

産業だより

木材共販市況

45〜55年生
(平成八年十月)

径 級	単 価 / 石	備 考
直材30cm上	6,400〜6,500円	
24〜28cm	6,200〜6,400円	
14〜22cm	6,200〜6,350円	
13 cm 下	3,000〜3,400円	0.14〜0.17石
曲 り 材	2,000〜3,000円	0.20〜0.35石

前回とほとんど同様14〜22cm、24〜28cmはほぼ完売で相変わらず引き合いはいいが、単価はやや弱含みで横ばい。

11月家畜市場

【東由利】

区分	頭数	平均体重	平均価格	kg当単価
合計	37	289kg	398,638円	1,344円
去勢	23	300	422,882	1,368
雌	14	271	358,808	1,304

- 最高価格雌 1,104,160円 安福165の9 栃錦 城芳14
- 最高価格去 527,360円 北国7の8 安美金 久福

町の宝もの

56

青麻神社碑（新町）

新町鹿島神社境内に、高さ一メートル弱の「青麻神社」の碑がひっそりと建っています。

青麻は麻のことで、かつて昭和三十年頃まで衣類（麻織作業着）の原料として、東由利でも盛んに栽培された麻への感謝やご利益、そして信仰から建てたと思われるが、誰が建立したのかや年代も刻まれていません。本町内での麻の碑はこの一つなのです。伝承によれば都からの落人が、仙台市青麻沢に納



（文・畑山昭一氏）

めて祀り、麻の栽培を教え広めたということ。麻は「からむし」の異名で「お」といわれ、皮をはいだあとの茎は「おがら」といい、屋根の修理・うら盆の精霊の迎え火や送り火に使ったりもしました。

林業だより スギの枝枯れ

今年の四月から六月頃にかけて、町内のスギ林に赤褐色に枯れた枝葉が目立ち、どうして枯れたのかと心配の声が聞かれました。

この被害について、県林業技術センターに問い合わせたところ、スギ黒点枝枯病であることが分かりました。この病気は県内の広範囲にわたって発生しているようです。

本病は幼齢木から老齢木まで幅広く侵す病気であって、これによって枯死

することはまれだけれども、いったん発生すると治ることがなく、慢性的に枝が侵され、ひどい場合は生長が著しく阻害されるといわれています。

そして、本病の発生は風通しの悪い沢、川沿い、くぼ地や常に霧の発生するような場所に被害が多い傾向にあります。

また、除伐や間伐、枝打ちなど手入れの遅れている林に発生し易いようです。

防除法は、適期に間伐や枝打ちなどの手入れを実施するしかありません。

（町林業懇話会長 佐藤恒悦氏）



「歯みがきタイム」

タバコをやめて四年、つい先日或る人のお礼にタバコをと思い、彼の胸ポケットから覗いている箱のデザインを見ると、確かに見覚えがあるのだが、その品名がどうしてもうかんでこない。側にいた女の子に尋ねたら即座にマイルドセブンライトと教えてくれた。そういえば私が喫煙をしていた頃確かにあったタバコだ。しかしたった四年しか経っていないのに、その品名はすっかり私の頭から消えている。

さて、喫煙時代の私の歯は見るも無残に煤けた色に汚れていた。退職して間もなく、食事中に歯に激痛が走り、

歯が割れたのではと館合の小松歯科に診察を乞うた。今までは思ってもみなかった虫歯ということで治療をしても良かったが、次々に不健康な歯が指摘され五本ほどの治療となった。その時に衛生士さんから歯の磨き方を教えてもらった。歯みがきの時間を聞いたら一回十分以上とのことであった。以来つとめてご指導のようにと思うのだが、これがなかなかできない。普通歯みがきは洗面所で行うわけだが、その洗面所の時間が一番短い。私の場合はトイレと風呂に入っている時が時間的には一番長いようである。従って朝のトイレと夜の入浴時が私の歯みがきタイムである。

（保対協会長 小松順之助氏）

虫歯なんてないもーん。

2歳児検診（ ）内は保護者



木島雅晴くん
大台（省吾さん）



嶽石智大くん
八日町（嘉規さん）



小松梨乃ちゃん
下通（敏貴さん）



菊地咲樹ちゃん
宇戸坂（賢悦さん）



小野夏歩ちゃん
宿（智行さん）



太田祐哉くん
大吹川（静江さん）



佐々木彩ちゃん
大琴（精人さん）



遠藤瑠美香ちゃん
五海保（明博さん）



太田潤夏ちゃん
蔵新田（光弘さん）



根田未咲ちゃん
田代（和春さん）

趣味のサークル紹介

No. 7

町のゲートボール状況

十年前はゲートボールは老人のスポーツと思われていたもので、若い人がやっていた笑われたのが思い出されます。今では県ゲートボール協会登録者も百六十人、年に一度の町民大会には五十チーム三百五十人あまりが参加しています。審判員資格も七十人余りが取得している状況です。平成五年のげんき館建設で、自他ともに認めるゲートボールのさかんな町になりました。先日は六月の全国選抜大会と一緒に出場した秋田のチームを東由利に招待、交流会をしました。今後ともこのような他町村との交流を深めていきたいものだと思います。

ゲートボールの魅力は、将棋や囲碁に似て先を読まなくてはいけないところだと思います。課題としては、高齢化に伴うボーラー人口減少の解消と小中学生を含めた三世代大会を開催することです。

これからますます盛んになるであろうゲートボールを私の

私の一冊

◆手放せない大切な本

カバーをなくし本もぼろぼろになっていきますが、初めて母に購入してもらった、思い出がたくさん詰まった本です。主人が転勤が多い関係で引越しが多いのですが、この本だけは必ず持って行きます。一人のみなしこの少女を引取ること、悪い性格だったおばさまが変わっていくという赤毛のアンに似た物語です。



少女パレアナ / E.ポーター
／借成社・刊（昭和42年初版）

当時私は子供でしたが、本の中に書かれていた、「苦しい時にこそよろこびのあそびをさがす」というプラス思考の考えが衝撃的だったのです。この本を初めて読んだ歳と、娘が同じくらいの歳になりました。親子二代で読めたら素晴らしい事だと思っています。紹介・齊藤眞理子さん（中通）

たちで盛り上げていけたらと思っています。思っております。（町ゲートボール協会／佐藤鉄雄さん）



▲秋田チームと一緒に

新着本紹介

公民館図書室より

- ◆今月もたくさんの本が入荷しました。ご利用ください。
- ◆患者よがんと闘うな
- ◆21世紀幼稚園百科
- ◆21世紀こども英語館
- ◆ディズニーマン作童話館
- ◆はたらく自動車ずかん
- ◆神の吹かす風上・下
- ◆人づくり風土記／徳島
- ◆世界大地図館
- ◆渡辺淳一全集 第十七巻
- ◆マンガ日本古典 一十七
- ◆世界の歴史 十六
- ◆暮らしの手帖 六十四
- ◆太陽 十一
- ◆ここからからだ
- ◆公民館 十

東由利の文芸

せせらぎ句会

- | | |
|-----------------|------------|
| 重ね着の婆さんの品良く売れる | 小野石路子（上里） |
| 初しぐれ半年分の定期買う | 遠藤トミ子（小倉） |
| 越冬の野菜つぶやく納屋の中 | 嶽石レイ（五海保） |
| 冬支度祖父のさしずの確かなり | 阿部俊子（横渡） |
| 老の手も数に入りおり稲埃 | 大庭喜右エ門（舟木） |
| ワイパーも霜に重たく通勤車 | 佐藤正義（湯出野） |
| 鴨猟の解禁犬の耳うごく | 小松女沙（下小路） |
| 消防隊訓練正して冬に入る | 阿部澄子（蔵） |
| 柿を剥く皮の渦巻く皿の上 | 小野貞子（蔵新田） |
| 又しても村去る話枯葉鳴る | 高橋ヒデ子（横渡） |
| 冬菜積み腰で押し行く一輪車 | 小笠原亮子（蔵新田） |
| 夜嵐や地肌なきまで銀杏の黄 | 小松順之助（中通） |
| ほっかむり櫓のくすぶるいぶり漬 | 嵯峨義之（秋田市） |
| 芋掘りの長さ余して畑に立つ | 小松徳蔵（湯出野） |
| 敷きつめし落葉を選び押絵かな | 小笠原トミ（蔵新田） |
| 白鳥の千里飛びきし羽繕ひ | 小松正昭（家ノ下） |
| 枯落葉庭木は静かに開中 | 阿部ナミ（蔵） |
| 木枯や山々日ごと透けてくる | 吉川葉子（時雨山） |
| 搗きたての米の温みや冬隣 | 高橋民治郎（舟打場） |
| 小春日やまわり道して薬師山 | 菊地常作（湯出野） |
| がまずみの実のこぼれけり小六月 | 小松忠正（下通） |

※本庄由利全県俳句大会において

特選 ◆五線譜のどこを奏する虫の秋

※小友郡市俳句大会において

特選 ◆姐にあまる鮭よりならまるる

- ◆月まろし嬰は桃色に眠りおり
- ◆夕花野少年山羊にひかれ来る

嶽石レイ

小笠原亮子

高橋秀月

小松女沙

アイドルをさがせ!

〈黒沢〉
千葉 優美ちゃん (1歳)
お父さん 悦さん
お母さん 晴美さん



▲いつも元気な優美ちゃん

「家の中ではにぎやかですが、知らない人(特に男の人)に対して人見知りしますね。家族が揃うと嬉しくなるのか、陽気になります」
好きなものはなんですか?
「ぬいぐるみのおもちゃや動物なんかが好きなんです」
最近困っていることは?
「日中昼寝をしないで、夕方に寝るので困ります。夜中に起きてしまうのです」
あと、近所に同世代の子供がいないのが寂しいですね
将来はどんな人になる?
「健康で大きくなってくれたらそれでいいと思っています」
(談/祖母・俊子さん)

ハイスクール

修学旅行の思い出



下郷分校2年
高橋 満くん

僕たちは10月2日から5日まで、大阪～奈良～京都～名古屋といったコースで修学旅行に行った。これまでは移動に電車を使っていたが、今年は往復飛行機を利用するという、少しリッチな旅だった。

大阪では水族館、奈良では法隆寺や薬師寺、東大寺を、京都では清水寺や二条城、嵐山を、名古屋では明治村を訪ねた。思い出せば見るべきものがたくさんあったように思う。

特に印象に残っているのは、大都会の姿。空港も街の人の数もすべてが桁はずれ。深夜なのに大勢の人が歩き、自動車の騒音はやまない。一見古風な街でも、繁華街に出れば人の山。しかし、僕にはどの街も皆同じに見えたのはどういうわけだったのだろう。

最後に反省を。バスガイドの話をもっとよく聞いておけばよかった。そして、夜は早く寝るべきだった。

どんな仕事をしていますか?
「コンデンサ製作です」
凝っていることは何ですか?
「野球です。小学から高校まで頑張ったせいか今でも好きです。夏の社会人野球では最優秀選手に選んでいただきました」
長所、短所を一言
「短所はおとなしすぎる。長所は温厚な性格でめったに文句を言わないことでしょうか」
将来の夢は?
「まだ考えていません」
町に望むことは?
「若い人が残れるような会社が増えたらいいですね」
親に一言お願いします。
「ずっと長生きしてください」
●広報から 寡黙な印象をうけました。お母さんがとても元気でした。来年の野球での活躍も期待していますよ。



ひでかず
小松 秀和さん
(山崎・19歳)
秋田ルビコン勤務

フレッシュ リレー

趣味は何ですか?
「カラオケなどですね」
最近凝っていることは?
「友達と休みが合わないので、友人と長電話に凝っています」
どんな性格ですか?
「マイペースでおっとりしています。短所は優柔不断な所です」
理想の男性は?
「芸能人なら福山雅治さんです。優しくて面白い人がいいですね」
将来の夢を教えてください。
「日本一周ということで(笑)」
町に望む事は?
「遊ぶ所が欲しいです」
親に一言どうぞ。
「元気に頑張ってください」
●広報から スラリとしたスタイルが印象的です。しかも実に明るくて楽しくインタビューさせていただきました。



小野久美子さん
(寺田・22歳)
黄桜温泉「湯楽里」勤務

童話をあなたに

チクタクむらへとんできたハチ、何と四百万びき。町中大混乱。こりゃ、たまらん!そこでパンやおじさんが考えた素晴らしいハチたいじの方法とは?。それは大きなジャム・サンドを作ること!。……という物語です。

作者のジョンはパン屋さんの息子として生まれました。多分小さい頃考えていたことをこうして絵本にしたのでは



ジャイアント・ジャム・サンド/
ジョン・ヴァーノン・ロード著/アリス館

ないかと思えます。だって絵本の中では小山のようなパンを作るために、昔の工場を改造したオーブンで十二時間も焼き、それをヘリコプターで運んでそれにハチたちを挟んでしまうという発想。これは子供のものとは思えないです。

もっとも本人の資質も重要ですが、その感性を大切にできる親も素晴らしいと思います。何かと難しい世の中、せめて子供の発想だけは自由に育てたいですね。

本の紹介・小野邦子さん(宿)

12月→データ東由利

〈10/1～10/31〉

住民基本台帳人口 () は前月比

■男	2,631人 (△8)
■女	2,764人 (△3)
■計	5,395人 (△11)
■世帯数	1,405戸 (△5)

() は1月からの累計

・出生	...4人(30)	・死亡	...6人(58)
・転入	...3人(78)	・転出	...12人(133)

■火災出動	0件(3)
■救急出動	9件(67)
■交通事故	0件(9)
・死亡	0人(0)
・傷者	0人(12)
■飲酒運転	0人(1)
■酒気帯び	1人(3)

カレンダー 12月の行事

1日～31日	歳末助け合い運動 飲酒運転追放県民運動 強調月間
8日(日)	広域由利家畜市場
10日(火)	農業振興対策会議
12日(木)	保健対策推進協議会 (有鄰館)
16日(月)	12月議会定例会
17日(火)	第2回健康大学(有鄰館)
18日(水)	東光苑クリスマス会
20日(金)	大平スキー場開き
22日(日)	第5回童話コンクール 表彰式
23日(月)	天皇誕生日
25日(水)	農業委員会(総会)
25日(水)	小、中学校二学期終業式
2日～1月下旬	家庭バレーボール 交流大会(健康増進 センター)

東由利

郷土の野草

No.142



アカソ

(イラクサ科)

文・写真
小松忠正氏

山地、山裾などに多く見られる多年草で、高さ六十～八十センチになります。茎は葉柄ともに紅色で、葉は対生し、基部は広卵形、先端は大きく三裂しとがり鋸歯があります。雌雄同株で、夏に各葉腋から長い一本の花軸を出して淡黄白色の雄花と、淡紅色の雌花をつけた瘦せた花穂を出します。和名は「赤麻」で茎や葉柄が赤くなることからいわれます。皮の繊維が強く、戦中はこれを衣料に利用したともいいますが確かではありません。仲間に「クサコアカソ」があります。

お誕生おめでとう

(10/21～11/20届出)

戸籍の窓口

10/26 欽崎 ほんかちゃん 恵正人 松柴
10/31 伊東 寿信くん 春美 蔵新田
11/3 阿部 公晟くん 宇左エ門 美紀子 野田
11/11 畠山 彩花ちゃん 咲華子 茂沢

ご結婚おめでとう

10/26 小野 晃一さん 須郷田 黒沢
11/1 斎藤 俊和さん 石高
11/11 滝澤 志保子さん 大雄村
11/18 阿部 幸枝さん 仁賀保町

ごめい福をお祈りいたします

10/21 佐藤八五郎さん(72・ナツミ・夫 中通
10/23 菊地 正治さん(72・忠輝・父 新沢
10/28 高橋民太郎さん(73・ナツエ・夫 智者鶴
10/28 小野 勝海さん(82・トクミ・夫 下小路
10/29 佐々木トクノさん(78・常太郎・母 大琴
11/4 畑山サタヨさん(90・悦雄・母 館合新田
11/10 武田 ハツさん(69・重雄・妻 須郷
11/11 八嶋 末蔵さん(86・信雄・義父 黒淵
11/15 佐々木三郎さん(89・シカ・夫 横小路
11/17 佐藤 ヤヨさん(81・雄三・妻 寺田
11/20 大坂 幸助さん(71・イヨ・夫 下通

もようころ

町社会福祉協議会に佐藤順一さん(中通)、遠藤二三雄さん(宿)、高橋信一さん(智者鶴)、佐々木常太郎さん(大琴)からご芳志が届けられました。広報送付の謝礼として小野美喜子さん(立川市在住・宿出身)、在京宿小会から金一封が届けられました。ありがとうございます。

広報クイズ

(モウ太くんをさがせ)
問 町のイメージキャラクター「モウ太くん」。表紙以外どこにか
くれているかな?

はがきに答え、住所、氏名、年齢、広報へ要望、感想などを書いて東由利町役場広報へ。締切は十二月十六日です。抽選で豪華景品を。

先月号の答えは旧下郷村と旧玉米村です。応募総数は十通でした。大家隆さん(小山市)、小松里衣さん(須郷田)、小松聡美さん(本庄市)、莊野博美さん(福川町)、伊藤かずきさん(大内町)が当選しました。おめでとうございます。

ほつと いきいき

「言葉は山びこです」。
この言葉は先日行われた福祉と健康のついで講演を行った山崎さんのひとことです。

言葉ひとつで人を快にも不快にもする、結局言葉は自分にかえるという内容でしたが、妙に納得しました。

確かに日常生活において汚い言葉を聞くと不快になります。その人の人格まで疑ってしまいます。逆にいい言葉を使う人には敬意を持ちます。自分もそうありたいですが、無意識に人を傷つけていることが多いかも知れません。とかくイライラしがちの毎日、せめて言葉だけはいいにしようと思います。(さ)